地域の力 きらり光る企業

新報国製鉄

57

低熱膨張合金では世界屈指

「質の高い100億円企業」目指す

新報国製鉄は半導体製造装置、液晶・有機EL製造装置、各種ウエハ用精密研磨定盤などに使われる低熱膨張合金や継目無鋼管用工具（穿孔プラグ）を主力商品とする。耐熱・耐摩耗合金で培った技術力を生かし、低熱膨張合金の分野に踏み込んだのは1980年代。以来、幾多の技術開発を経て主力事業としての基盤を確立した。

顧客の求める特性に合わせて熱膨張係数などを調整する技術力に加え、熱膨張・ヤング率・低温安定性・耐食性・経年変化の全てで世界最高水準を備える〝究極のゼロインバー〟など世界最先端の開発力が強みだ。

成瀬社長

同社は今、2029年10月の創立80周年に向けて『質の高い100億円企業』を目指す取り組みを続けている。ベース商品に磨きをかけつつ、いかに新しい商品を生み出し、次の柱を増やすか。バイオマス発電用ボイラ部品、産業廃棄物焼却炉用消耗品など塩素腐食に強い開発合金や、航空機用CFRP成形用金型材などが伸びつつあり、低熱膨張合金とセラミックの複合材なども視野に入れている。

「当社は資金効率の悪い会社です」。成瀬正社長の数年来の口癖だ。20年12月期単独売上高予想48億円に対し、3月末の手元流動性残高は約30億円。リーマンショック後の半導体・液晶製造装置需要の急減で緊急合理化策を実施した時の痛みを忘れず、その後の好業績に浮かれず、堅実な財務基盤を築いてきた。

行き交う人に憩いの場を提供（本社正門前から構内を撮影）

新型コロナ禍に見舞われる現状でも守りは固い。資金に余裕を持つのは危機対応だけが目的ではなく、研究開発や事業化の好機を逃さないためでもある。

地域とのつながりでは、住宅展示場や商業施設に約7千坪を賃貸するとともに花壇や由緒ある小さな森を整備し、行き交う人々に憩いの場を提供する。19年度には高剛性ゼロインバー合金で、川越市から川越ものづくりブランド「KOEDO E-PRO」の認定（大賞）を受けている。

（谷山　恵三）

経済産業省が選定する「地域未来牽引企業」のうち、鉄鋼・非鉄金属関連の企業を紹介します。

会社データ

▽創立＝1949年10月
▽本社＝埼玉県川越市新宿町5－13－1
▽社長＝成瀬正氏
▽資本金＝1億7550万円
▽売上高＝55億1700万円（19年12月期）
▽従業員数＝100人
▽事業概要＝特殊鋼製造